

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指数と活動計画	評価		
①確かな学力の育成 ・該当学年の基礎的な力を身に付け、よく考える子どもの育成をめざす。 ・児童理解を深め、個に応じた適切な支援をめざす。	①指導方法の工夫、教材研究、研究授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導方法を共有する。 ②児童のコミュニケーション能力を高め、表現力を身に付けさせる。 ③家庭学習に積極的に取り組もうとする児童を育成する。 ④一人一人の教育的ニーズに対応した指導内容や方法を明確にし、学習活動の充実を図る。	評価指数 ① ノートやタブレット端末を用い、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」と答える児童が80%以上となる。 ② 授業中に先生や友達の話をよく聞いている」と答える児童が80%以上となる。 ③ 「忘れずに宿題をしている」と答える児童が80%以上となる。 ④-1 「特別な支援が必要な子どもについて共通理解をすることができている」と答えた教員が80%以上となる。 ④-2 「支援引き継ぎシートや個別の指導計画を作成し、個に応じた指導することに努めている」と答えた教員が80%以上となる。	評価 評価指数の達成度 ① ノートやタブレット端末を用い、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」と答えた児童が77.5(前年度84.4%)だった。 ② 授業中に先生や友達の話をよく聞いている」と答えた児童が86(前年度88.7%)だった。 ③ 「忘れずに宿題をしている」と答えた児童が87.4(前年度83.9)%と増加した。 ④-1 「特別な支援が必要な子どもについて共通理解をすることができている」と答えた教員が87%(前年度89.3%)だった。 ④-2 「支援引き継ぎシートや個別の指導計画を作成し、個に応じた指導することに努めている」と答えた教員が91.3(前年度67.9)%と大きく増加した。	○保護者のタブレット活用への関心は高い。 ○タブレットを活用した授業を参観した。児童が自分にあった課題に取り組んでいたのがよかった。 ○タブレットを使った家庭学習に、児童は以前より意欲的に取り組むようになってきたと感じる。 ○教員が互いに授業を参観するのはよい試みだと思う。若手教員がベテラン教員から学ぶことも多いだろう。教員の指導力の向上につながり、児童の資質・能力の向上につながると思われる。	○一人一人の達成状況を見取り、めあてとふりかえりに一貫性をもたせた授業づくりに引き続き取り組んでいく。 ○学年に応じ、自分の考えを深めたり広げたりするためのノートやタブレットの効果的な活用についての研修を充実させる。 ○学習の中で思考ツール等を活用し、根拠をもって自分の考えを伝える活動を取り入れる。 ○タブレットを活用した家庭学習として、ドリル学習に加え、児童が自ら考え、内容や方法を選択して学びを深める利活用について検討する。 ○支援を必要としている児童についての情報共有を行い、協働して支援に取り組んでいく体制づくりをさらに進める。
		活動計画 ① 授業の習熟度を高めるために、板書の工夫やノート指導の研修をする。 ②-1 学年に応じた発表の仕方を示したり、話し合いを深める手立てを講じたりする。 ②-2 友達と意見を出し合い、深く考える場を設定する。 ③ 「家庭学習のてびき」を活用し指導する。 ④-1 放課後や終礼等で児童の情報交換をしたり、必要に応じて校内委員会を開催したりして、支援を必要とする児童の理解に努める。 ④-2 支援を必要とする児童の支援引き継ぎシートを作成し、個々の児童の実態に応じた支援を行う。	総合評定 (評定) B 活動計画の実施状況 (所見) ○学校力向上研修を通して、全教職員でめあてとふりかえりを活かした授業改善に取り組んだ。 ○児童の考えを広げたり深めたりするためのノートやタブレットの効果的な活用は今後の課題である。 ○児童が家庭学習にすすんで取り組むことができるよう家庭との連携を図った。 ○通級指導教室が新設されたことで、児童の学ぶ場の選択肢が増えた。 ○支援を必要とする児童について複数の教員で話し合い児童にとって最適な指導や支援を検討し実施するように努めた。		

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の 改善方策
		評価指数と活動計画	評価		
<p>②豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい自分や生活を創っていく力を身につける授業実践を行う。 ・自ら考え判断し、主体的によりよく生きようとする児童を育成する。 ・自分たちの生活や環境をよりよくしようと、自ら考え行動できる児童の育成を図る。 ・全校児童が元気に登校するとともに、あいさつ等の基本的な生活習慣を定着させる。 	<p>①互いの違いを認め合い、だれとでも進んで関わろうとする児童を育成する。</p> <p>②正しく判断し、相手の気持ちに寄り添った行動ができる児童を育成する。</p> <p>③場に応じた適切な言葉遣いと相手を思いやる言動のとれる児童を育成する。</p> <p>④自分の生活を振り返り、よりよい生活をしようとする児童を育成する。</p> <p>⑤学級・学校の一員としてみんなのためになる活動に進んで取り組む児童を育成する。</p> <p>⑥学級目標や週目標などをもとにめあてをもち協力して実践しようとする児童を育成する。</p> <p>⑦進んであいさつする習慣を身に付けさせる。</p> <p>⑧学校のきまりや約束を守る姿勢を身に付けさせる。</p> <p>⑨児童の不登校やいじめ等の問題行動を未然に防ぐ。</p>	<p>①「自分のよいところや友達の良いところが言える」と振り返る児童が80%以上となる。</p>	<p>①肯定的評価をした児童は85.7（前年度84.4）%で達成できた。</p>	<p>○あいさつができる子どもに育てていくのが課題であろう。</p> <p>○児童が多面的に自分のよさに気付くことができるよう、異学年交流や子ども同士の交流など体験的な活動を計画的に取り入れていく。</p> <p>○児童がめあてをもち、意欲的に活動できるように振り返りシートの活用や授業改善に継続して取り組む。</p> <p>○児童が自分や友達のよさを認め合い、自己有用感を高めていく教育活動に取り組んでいく。ICTの積極的な活用も検討する。</p> <p>○児童一人一人が生き生きと学校生活を送り、豊かな人間性や社会性を身に付けられるよう各学年の実態にあわせ学級会の充実に取り組む。</p> <p>○ルールや約束事を共通理解し、規範意識の向上に学校全体で取り組んでいく。</p> <p>○教職員全体で児童の共通理解を図り、問題や課題の早期発見・早期解決に努める。</p>	
		<p>②「困っている友達がいたら助ける」と振り返る児童が80%以上となる。</p>	<p>②肯定的評価をした児童は95.4（前年度93.8）%で達成できた。</p>		
		<p>③「家の人や友達、先生など周りの人に対して、その人を思いやった話し方や行動をしている」児童が80%以上になることをめざす。</p>	<p>③肯定的評価をした児童は88.4（前年度86.3）%で達成できた。</p>		
		<p>④「道徳の時間に勉強したことを自分の生活に生かすことができている」児童が85%以上になることをめざす。</p>	<p>④肯定的評価をした児童は88.4（前年度83.7）%で達成できた。</p>		
		<p>⑤「学級の話合いや係の仕事、委員会の仕事などに取り組むことができている」と答える児童が80%を超える。</p>	<p>⑤肯定的評価をした児童は87.1（前年度87.8）%で達成できた。</p>		
		<p>⑥「自分のめあてをもって、それに向けてがんばることができている」と答える児童が80%を超える。</p>	<p>⑥肯定的評価をした児童は82（前年度81）%で達成できた。</p>		
		<p>⑦「あいさつができている」と答える児童が90%をこえる。</p>	<p>⑦肯定的評価をした児童は81.7（前年度84.4）%で達成できなかった。</p>		
		<p>⑧「きまりや約束を守って生活している」と答える児童が90%をこえる。</p>	<p>⑧肯定的評価をした児童は84.9（前年度83.4）%で達成できなかった。</p>		
		<p>⑨教職員が不登校やいじめ等の対応を必要とする児童について把握し、それぞれの立場で支援している。</p>	<p>⑨肯定的評価をした教職員は91.3（前年度100）%で達成できた。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>①-1 自分や友達のよさに気付くような掲示や発表の場を工夫する。</p> <p>①-2 一人一人を大切にしたい声かけを行い、互いに認め合う雰囲気づくりに努める。</p> <p>② 正しい知識をもち、正しく判断する力と実践力がつくように授業を工夫する。</p> <p>③ 教職員間で場に応じた適切な言葉遣いについて共通理解し、全教職員で指導する。</p> <p>④ 年間計画にある道徳の時間を充実させ、児童一人一人が道徳的価値のよさに気付くように努める。</p> <p>⑤ 委員会や学活などで、児童自身の企画や運営による活動に取り組ませる。</p> <p>⑥ 学級で自らを振り返り、自分たちの課題を話し合いめあてをもって生活できるように働きかける。</p> <p>⑦-1 朝の登校時に正門前で児童会を中心としたあいさつ運動をする。</p> <p>⑦-2 朝会であいさつの意味や正しいあいさつの仕方を指導する。</p> <p>⑦-3 全教職員による当番制の下校指導で、帰りのあいさつを指導する。</p> <p>⑦-4 校内だけでなく遠足や校外学習等においても指導する。</p> <p>⑧-1 学校の実態に応じて具体的な週目標を決め、重点的に指導する。</p> <p>⑧-2 その場での指導と継続的な指導を行う。</p> <p>⑨-1 アンケートを活用し、いじめや不登校の早期発見・早期対応をする。</p> <p>⑨-2 学級目標を話し合っ決めていくことにより、支えあえる学級集団を育てる。</p> <p>⑨-3 全教職員の情報交換により児童のよさやがんばりを共有し、それを「ほめ言葉」として児童にフィードバックしていく。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 体験的活動や異学年交流等を通して、多面的に自分のよさに気付いていく活動、きらきらの木を掲示し全校でよいところみつかる活動に取り組んだ。</p> <p>①-2 教育活動全体を通じて人権尊重の意識を向上させ、一人一人を大切にしたい心を育む教育に取り組んだ。</p> <p>② 各学年で授業を公開したり、低中高に分かれて授業研究会を行ったりした。一人一人の学習状況等を見取り、よさを評価することに努めた。</p> <p>③ 児童の言葉遣いについて教職員が共通理解し同一の指導を行った。</p> <p>④ 学習した内容を繰り返し想起させることで学習後も道徳的価値の自覚を深めた。</p> <p>⑤ 年度当初に立てた年間計画に基づき、委員会活動や係活動を通して児童が主体的に学校生活の充実と向上に向け活動した。</p> <p>⑥ 振り返りシートを活用し、学習を振り返り評価をすることで自分の成長やよさに気づけるようにした。</p> <p>⑦-1 児童会が、朝、各クラスへあいさつして回ったり、正門前であいさつ運動をしたりすることにより児童のあいさつへの意識向上を図った。</p> <p>⑦-2 児童会から児童へあいさつすることの意義を説明することで、あいさつをしようという動機付けを図った。</p> <p>⑦-3 学校周辺通学路で、交通指導とともにあいさつ指導を当番制で行った。</p> <p>⑦-4 学校行事等の機会を捉え、あいさつの大切さについて学年・学級で指導した。</p> <p>⑧-1 月初めに月目標を提示し、それをもとに各学級で週目標をたてた。帰りの会等で達成状況について自己評価、他者評価をした。</p> <p>⑧-2 学校全体できまりやルールを共通理解し、継続して指導ができるようにした。</p> <p>⑨-1 学期に一回、生活アンケートを実施し、気になる児童には個別に面談を行うなど早期発見・早期対応に努めた。</p> <p>⑨-2 担任の思いや願い、児童の思いや願いをもとに学級目標を設定することで、よりよい学級にしていこうという意識や目標達成への意欲を高めることができた。</p> <p>⑨-3 児童理解の研修や終礼等での時間確保により情報共有・共通理解し、全教職員で児童を見守り支援していく体制づくりに取り組んだ。</p>		

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指数と活動計画	評価		
<p>③健康な心と体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動のおもしろさを知り、進んで体力向上をめざす児童を育成する。 よりよい生活習慣をめざして、自ら課題を解決しようとする児童を育成する。 健康な生活を送るために、正しい食生活ができるようにする。 	<p>①様々な運動に親しむ機会を与えたり、体育の授業を充実させたりすることで、児童の運動への興味・関心を高め、体を動かすことが好きな児童を増やす。</p> <p>②基本的な生活習慣を確立し、心身ともに健康で、健やかに成長し、毎日元気に楽しく、心豊かに、充実した学校生活が送れるようにする。</p> <p>③よりよい食事ができるようにするとともにアレルギーへの共通理解を図る。</p>	<p>評価指数</p> <p>① 外で遊んだり、体を動かしたりすることが「好き」という児童の割合が90%以上となることをめざす。</p> <p>② 「早寝・早起きができている」「朝ごはんを食べて登校できている」児童の割合が、それぞれ80%以上となる。</p> <p>③ 「給食では、できるだけすききらいなく、バランスよく食べている」児童が80%以上となる。</p>	<p>評価</p> <p>① 肯定的評価をした児童は84.4(昨年度85.2)%で達成できなかった。</p> <p>② 「早寝・早起きができている」と肯定的評価をした児童は73.1%、「朝食を食べて登校できる」児童は94.4%で、朝食の摂取率は目標の80%を達成した。</p> <p>③ 肯定的回答が80.1%で目標値を達成できた。「とても思う」と答えた児童が51.6%と半数を超え、昨年度より増えている。</p>	<p>総合評定 (評定)</p> <p>B</p> <p>○運動への取組に二極化が見られるとのことだが、「運動しようよ」週間等の取組はよいと思う。体育のマット運動の授業を参観したが、児童らは自分で選んだ場で技を磨き、楽しさや喜びを感じながら運動する様子が見られたのはよかった。</p> <p>○児童のケガが多いと聞く。子どもはいろいろな遊びを通して体幹を鍛えたり友達との関わり方を学ぶ。スマホやゲームといった遊びだけでなく、いろいろな遊びをしてほしいと思う。</p> <p>○運動し栄養バランスの取れた食事をとることが健やかな成長につながる。給食の残食がずいぶん減ったという話があった。しっかりと運動し、しっかりと食べる子どもになってほしい。</p> <p>○「できるだけすききらいなく、バランスよく食べている」に対する児童の肯定的評価は昨年度よりわずかに減少しているが、81.8%で目標値を達成した。給食の残食量は年度初めの7L/日から2月は2〜3L/日に減少した。</p>	<p>○児童の運動への取組の二極化を改善するために、児童が主体的にとり組み、運動する楽しさを味わう体育の授業づくりについて校内で情報交換をする機会を設ける。</p> <p>○学校体育連盟主催の3事業他、クロスカントリー大会や駅伝大会、チャレンジランキングへの参加を多くの児童に促し、運動への取組の二極化を改善していく。</p> <p>○子どもの心の成長に必要な睡眠に関する生活習慣の改善についてほけんだより等を活用し、家庭と協力し取り組んでいけるよう働きかける。</p> <p>○よりよい給食指導について学校全体で共通理解し、今後も取り組んでいく。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 トラックなどのラインが引きやすいよう運動場にポイントを打つなど学習環境を整え、児童の運動量を確保する。</p> <p>①-2 体操・水泳・陸上などの練習を、選手だけでなく、練習のみを希望する児童や4年生へも参加を呼びかけ、運動への意欲付けを図る。</p> <p>①-3 チャレンジランキングへの参加や学習カードの活用など、様々な運動に親しむ機会を紹介し、時間や場の確保を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 体育の授業を充実させる指導法について、教職員同士が情報交換する機会を設けた。体育科年間計画を工夫することにより学習環境が整い、児童の運動量の確保につながっている。</p> <p>①-2 学校体育連盟主催の3事業他、クロスカントリー大会や駅伝大会の練習に、大会出場選手以外の児童へも参加を働きかけ、運動への意欲付けを図った。</p> <p>①-3 市のチャレンジランキングに取り組んだクラスもあった。2月には「運動しようよ」週間を設定した。朝会で体育委員会から一緒に運動しようと呼びかけたところ、さまざまな学年の児童が昼休み体育館に集まり、ボール運動を楽しんだ。</p>		
		<p>② 学習成果・運動能力の向上等に大きな影響を及ぼす基本的な生活習慣の確立の大切さを、あらゆる機会を通して児童に指導するとともに、保護者にも啓蒙し、協力が得られるよう努める。</p>	<p>② 保健安全委員会から全児童へ、朝食やお昼の放送を活用し、生活習慣について伝える機会を設けた。保護者へは、ほけんだより等で生活習慣改善への意識向上を図った。参観日に、歯科医師・歯科衛生士による歯みがき指導を1年児童に行った。保護者も参加することにより歯磨きの重要性や家庭での歯磨き習慣についての啓発につながった。</p>		
		<p>③ 給食時間や学活の時間等に、バランスのよい食事やマナーを指導するとともにアレルギー対応についての共通理解を行う。</p>	<p>③ 2学期の始めに給食指導について職員会で共通理解をはかった。各クラスでは、バランスのよい食事の大切さや発達段階における一人分の摂取量等について指導した。2・4・6年で食育パワーアップ授業を実施し、朝食の重要性や野菜摂取の必要性について学んだ。</p>		

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指数と活動計画	評価		
④保護者・地域から信頼される学校 ・機能的な学校組織と活力ある学校づくりを図る。 ・自らの生命や安全は、自らで守るという意識を高める。	①学校経営方針に基づき、課題解決に向け協働し、主体的に実践・改善することができる教職員集団を形成する。 ②学校・家庭・地域・関係機関が連携し、安全で安心な学びの場づくりの体制を構築する。 ③どのような場面でも交通ルールに基づいた行動ができるようにする。 ④自然災害発生時等の緊急事態発生の際に、適切な行動がとれるように指導する。	評価指数 ① 自己評価の個別評価A、B達成を100%にするとともに、活躍の場があり職務に対してやりがいを感じている教職員が90%を超える。	評価指数の達成度 ① 職務のやりがいを感じていると肯定的評価をした教職員は、91.3%であった。	総合評定 (評定) B (所見) ○分掌に複数配置したことにより、教職員と相談しながら役割を分担し校務にあたることができた。また、学校が抱える課題や問題点について学年団で話し合い助け合い、支え合う場面も多く見られた。 ○特別支援教育における児童との関わり方や保護者との相談の進め方について研修する機会を設けた。日々の教育活動への取組を振り返りさらなる意欲付けにつながった。 ○不登校・不登校傾向の児童については、保護者や関係機関と連携を図っている。一人一人の可能性を引き出し伸ばしていけるようさらなる連携を深め、学びの場を検討していく必要がある。 ○地域の方や子ども園との交流、地域の文化祭出品等により、児童も地域を身近に感じるようになってきた。 ○「児童は交通ルールを守っている」と答えた保護者は増加しているが、交通ルールが守れておらず危ないという声も聞かれる。 ○子ども園との合同避難訓練、防災に関する職員研修を実施した。地震発生時の大松小学校の被害想定、災害時の備えや避難訓練の取り組み方等を学んだ。 ○5月に警報発令時の下校方法を確認し集団下校を実施した。改善点を話し合いよりよい方法を検討した。 ○6月に引き渡し訓練を実施した。「引き渡し方法について子どもと確認できている」と答えた保護者は71.8%であり、さらなる働きかけが必要である。	○児童の学校生活を充実させるため、引き続きわかる授業、子どもが意欲的に取り組む授業、安心して生き生き活動に取り組む集団づくりに向け、さらに教師力を向上させる。また、教職員全体で児童を見守る体制づくりや児童理解に向けた情報共有をさらに進め、学校力の向上を図る。 ○支援を必要としている児童については、引き続き関係機関と連携を図っていく。課題や問題の早期発見、早期対応に向け、報告・連絡・相談の徹底や教職員の危機管理意識の向上により、安全・安心な学校づくりに努める。 ○学校・地域・家庭の連携をより進め、児童の学校生活の充実のため物的・人的資源の開発に努める。また、6年間の成長を見通したカリキュラム・マネジメントに取り組む。 ○交通マナーや社会のルールを守る態度を育てるため教職員が共通理解を図り学年や発達段階に応じた指導をしていくとともに、学校、家庭、地域が連携し規範意識の育成に取り組む。 ○避難経路が通れない、怪我をした児童がいるなど様々な状況を想定した避難訓練等を実施し、児童が主体的に判断、行動し、振り返る防災教育に取り組む。 ○よりスムーズに児童を保護者に引き渡すことができるようにマニュアルを見直し検討していく。引き渡し方法についての周知徹底や災害への備え、対策について機会を捉え保護者に啓発していく。
		評価指数 ② 「学校生活は楽しい」と答える児童が90%を超える。	評価指数の達成度 ② 昨年度肯定的評価をした児童は91.6%であったが今年度は、93%となり目標値を上回った。		
		評価指数 ③ 「道路の右がわ(道路の安全な側)を1列で歩き、道路をわたるときには左右をたしかめ、自転車にのるときにはヘルメットを着用するなど、交通ルールが守れている」と答える児童が、90%以上になる。	評価指数の達成度 ③ 達成目標値には達しなかったが、昨年度の80.3%から大きく向上し、89%であった。		
		活動計画 ①-1 「避難訓練の事前指導を行い、また機会を捉えて安全指導を行い、そのことを避難訓練の際に生かすことができている。避難訓練の際、自分の担当の役割を果たすことができている」と答える教員が90%以上になる。	活動計画の実施状況 ①-1 目標値の90%を上回り、今年度は95.7%であった。		
		活動計画 ①-2 「災害時の児童引き渡し方法について子どもと確認できている」と答える保護者が80%以上になる。	活動計画の実施状況 ①-2 昨年度肯定的評価をした保護者は67.9%であったが今年度は71.8%で、3.9%増加した。		
		活動計画 ① 教職員の力量形成と組織力を高めるため、直接的な指導、学校評価、教員評価、校内研修を具体的に即して行うことで充実させる。	活動計画の実施状況 ① 学校力向上コラボレーション事業において全教職員で目標を共有し、授業改善に取り組んだ。教職員からは「児童の語彙力が増えた。」「振り返りにより児童のつまづきがわかり次時の学習に役立てることができた。」といった声が開かれた。教職員の力量が高まり、児童の学びも豊かになった。		
		活動計画 ②-1 コミュニティスクールを活用し、よりよい学校づくりについて検討し改善を図る。	活動計画の実施状況 ②-1 地域・学校・児童の実情から、よりよい学校づくりに向け、協力・相談できる体制整備を行っている。		
		活動計画 ②-2 必要に応じ関係機関と連携を図り、早期対応、早期解決に努める。	活動計画の実施状況 ②-2 支援を要する児童等について教職員同士で相談している場面が多く見られる。それが早期対応・早期解決につながっている。		
		活動計画 ③-1 登下校時に教職員による通学路での交通安全指導を行う。	活動計画の実施状況 ③-1 下校時や長期休業日明けの登校時に教職員が通学路で交通安全指導・あいさつ指導を行っている。		
		活動計画 ③-2 交通安全教室を実施する。交通ルールに加え、ヘルメットの着用についても指導する。保護者への啓発を行う。	活動計画の実施状況 ③-2 1・3年を対象に交通安全教室を実施した。機会を捉え交通ルールを守ること、命を大切にすること等の声かけを学校・学級で行った。		
活動計画 ④-1 自然災害発生時等における安全指導を機会を捉えて行う。	活動計画の実施状況 ④-1 勝占認定子ども園と合同で地震・津波を想定した避難訓練を行った。運動場への避難、校舎3階への避難ともにスムーズに行うことができた。1月には、防災に関する職員研修を実施した。				
活動計画 ④-2 児童の引き渡し方法について確認・再確認のために保護者への広報を定期的に行う。	活動計画の実施状況 ④-2 大地震等により児童を安全に下校させることが出来ない状況を想定し、引き渡し訓練を実施した。実施後には、改善点等を話し合い、よりスムーズな引き渡しができるよう教職員で共通理解した。				